

令和6（2024）年2月21日

保護者様【家庭数配布】

吹田市立山田第一小学校
校長 速水 素子

令和5年度学校教育アンケート結果のお知らせ

平素より、本校教育活動にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、11月に保護者を対象に実施いたしました、学校教育アンケートにご協力をいただきありがとうございました。結果がまとまりましたので、児童を対象とした学校教育アンケートと合わせてご報告させていただきます。このアンケートは本校の教育活動について皆様方より広く考えや思いを伺い、見直し及び改善すべきところを明確にし、今後の教育計画や教育活動・学級経営に反映させるためのもので、毎年実施しています。今年度は87.4%の保護者から回答をいただきました。皆様のご期待に応えるべく、教職員一同さらに努力してまいりたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

学校教育アンケート（保護者対象）より

「子どものことについて先生に相談しやすい」 「学校の教育方針や行事、活動などの様子をよく知っている」

どちらも87%以上の肯定的な評価をいただきました。今後も学校と家庭の連携を密にとり、保護者の皆様と一緒に教育活動を進めて参ります。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

また、お子さまのことについて相談がある場合には、電話・連絡帳・さくら連絡網で連絡していただくか、直接お会いしてお話する機会もあろうかと思えます。いろいろなケースに応じて、担任・学年・養護教諭などと相談することができますし、市の専門機関等と連携する方法もあります。一緒に考えていきましょう。

そして、山田第一小学校では、学校ホームページ内の「山一小ニュース」にて、子どもたちの日々の活動や学習の様子をコメント・写真とともに掲載しています。昨年度に比べ、来校いただく機会は増えてきましたが、「山一小ニュース」では、普段の何気ない子どもたちの様子を垣間見ていただけます。頻繁に更新しておりますので、ぜひともご覧ください。併せて、学校教育方針等もホームページに掲載しておりますので、ご覧くだされば幸いです。

「学校は、発達段階に応じて、子どもに人権を尊重する意識（いじめをなくす等）を そだてようとしている」

93%の肯定的な評価をいただきました。吹田市では市内全域で「いじめが起こりにくい学校づくり」に取り組んでいます。本校においても全学年でいじめ予防授業を行いました。

また、いじめの早期発見や早期対応を目的とした生活アンケートを学期ごとに実施し、子どもたちの様子の把握に努めております。いじめは、どこの学級でも起こりうるという認識のもと、日常的な子どもの観察を丁寧に行うとともに、発生時には組織的に対応し、聞き取り・指導等、再発防止に向けた取組を引き続き進めて参ります。

この他にも人権教育については、障がい者理解、平和学習、国際理解教育等、年間学習指導計画のもと、子どもたちが多様な価値観に向き合えるように計画的に取り組むを進めております。



「学校は保護者や地域の人が授業を参観する機会を設けている」
「学校は、保護者や地域の人たちと話をする機会を設けている」
「学校から地震や台風などの非常時の対応について知らされている」

「学校は保護者や地域の人たちと話をする機会を設けている」では81%「学校は保護者や地域の人
が授業を参観する機会を設けている」「学校から地震や台風などの非常時の対応について知らさ
れている」の2点については、98%以上の肯定的な評価をいただきました。今年度は、新型コロナ
ウイルス感染症による制限もほとんど無くなり、参観・懇談、個人懇談、運動会や緊急時引渡し訓
練、学校公開日、校内音楽会などで子どもたちの様子を多くの方に参観していただく機会に恵まれ
ました。

ここまで、教育活動の継続と感染症予防の両立ができましたのも保護者や地域の皆様のご理解・
ご支援のお陰と感謝いたしております。今後も引き続き、開かれた学校づくりや子どもたちの安全
についての教育活動を進めていきたいと考えております。

「学校では、子どもに関する個人情報を守られている」

昨年に引き続き、97%と高い肯定的な評価をいただいています。基本的人権である個人利益侵害の防
止の観点から、個人情報の取り扱いには細心の注意を払っております。ご家庭におかれましても各種調
査票や「大切な手紙用封筒」の取り扱い等、ご協力をお願いいたします。

「学校への願いはどんなものですか」「学校はその願いに応えている」

「友人や先生と良好な人間関係」の項目が最も高く、続いて「元気で通える学校」「心の教育」「生
きる力」「社会性(マナー・しつけ)」の順になりました。若干の数値の増減はあるものの、昨年度と
ほぼ同じ順番となりました。子どもたちにとって安全で安心できる居場所として、保護者の皆さまに
も「いってらっしゃい」と背中を押してもらえる学校となるよう努めてまいります。

また、「学校はその願いに応えている」の項目では、91%の肯定的な評価をいただきました。今後
も日々試行錯誤を繰り返しつつ、子ども一人ひとりと向き合っておりまいます。そして、子ども理解に
努めるとともに信頼関係を築き上げてまいります。

「子どもと『食』に関する話をしている」



食育について学校と家庭で共通理解のもと教育活動を進めるために設けています。85%の肯定的な
回答をいただきました。子どもたちが食に関する正しい知識とバランスの良い食を選択する力、健全
な食生活を実践できる力を身に付けることができるよう、学校では家庭科や特別活動の時間を利用し
て「食育」に取り組んでいます。また給食の紹介に栄養クイズを取り入れる等、子どもたちが食に興
味を持てる取組も引き続き行っています。

「北山田小学校や山田東中学校の現状についても知っている」

残念ながら、肯定的な回答は25%でした。「自らを律し、自他ともに大切にできる子」「考え、聞き、
判断できる子」「自分で考え、表現し、行動していく子」を山田東中ブロックの目指す子ども像と据え
て、山一幼稚園を含めた一園三校で取組を進めています。「生活指導の基本」を「あいさつ・ベル着・
清掃」の項目で統一するとともに長期休みの過ごし方について共通の指導を行っています。また、各校
の担当者が、定期的な会議で、各校園の情報交換を行い、日々の生活指導に生かしています。1Fに北
山田小・山田東中・山一幼の学校園だよりを掲示していますので是非ご覧ください。



学校教育アンケート（児童対象）より

基本的な生活である朝食は98%の児童がほぼ毎日朝食を食べて登校しています。昨年度とほぼ同様でした。朝食をとることは身体にも脳にも重要です。朝から元気に登校できるようにご家庭でのご協力を引き続きお願いします。

「学校にもってくるものをほぼ毎日確かめている」の項目は確かめている児童が73%と昨年とほぼ同様でした。前日には、次の日の持ち物の確認を行う習慣を継続してほしいです。しかし、7%の児童は確かめていないため、忘れ物につながっていると考えられます。学力・意欲の低下につながりますので、ご家庭でも声掛けをお願いします。



家庭学習の時間については、「2時間より多い」10%、「1時間から2時間」17%、「30分から1時間」43%、「30分より少ない」30%と、ほぼ昨年度同様でした。学習内容の定着のためにも家庭学習に取り組むことは大切です。まずは短時間から、継続的に学習に取り組む習慣をつけてください。

「いじめはいけないこと」は、98%の児童がいけないことだと自覚しています。いじめ予防授業や日常の指導を通して、意識や実践力を高めていってほしいと願っています。

「先生に相談しやすい」は、79%と昨年度より肯定的な回答が増加しました。しかしながら、高学年になるにつれて徐々に相談しにくい傾向が見られます。学級等での様々な様子をしっかり見つけ、小さな変化を見逃さないように努力していきます。



「給食をすききらいなく食べていますか」の項目は、肯定的な回答が91%と、昨年度より少し増加する結果となりました。食生活の乱れは、肥満・痩身や体力低下、そして学力低下にも関係していると言われています。学校では食育、給食を中心に改善に努めていきます。ご家庭におかれましても、食事の大切さや栄養のバランス等について、お子さまと話す機会を設けていただければ幸いです。



就寝時刻については、58%の児童が9時前もしくは9時台に就寝しています。11時以降に就寝している児童は9%と昨年度同様でした。睡眠時間を十分確保することは成長だけでなく、心の安定にもつながります。気持ちよく一日がスタートできるようにご家庭でのご協力をお願いします。

テレビやゲームなど、2時間までと決めている児童は63%と昨年度とほぼ同様でした。3時間以上している児童は21%と昨年度に比べ少し増加傾向にあるようです。テレビの見方、ゲームをする時間などルールを決めて日常生活に支障なく上手に付き合えるよう、ご家庭で話し合ってみてください。

「授業が分かりやすい」は89%と昨年度同様でした。しかし、約1割の児童は授業が分かりにくいと感じています。引き続き、個に応じたきめ細やかな指導に取り組みます。

「学校が楽しい」は93%で昨年度と同様に高い評価でした。今年度は制限なく行事に取り組めるようになり、ほとんどの児童は行事や日常の生活で学校生活を楽しんでいるようで安心しました。引き続き安心安全に学校生活を送れるよう努めてまいります。



「自分にはよいところがあると思いますか」の項目では、肯定的な回答が77%と、昨年度と比較して少し減少してしまいました。また、高学年になるにつれて、肯定的な回答の割合が減少する傾向が見受けられます。児童の中には、目に見える学力で自分を評価していることが感じ取られることがあります。自分の存在を認める感覚を自己肯定感と言い、それを育むために、互いの良さを認め合う学級づくりや、生活や授業を振り返って自己評価や他者評価を取り入れながら共に成長できる温かな学校づくりに取り組んでいます。ご家庭におかれましても、「次の活動へのステップ」へとつなげるために、『子どもをほめる』『子どもに達成感を味合わせる』『失敗してもチャレンジした姿勢を認める』ような前向きな言葉がけをお願いします。